
経済 TOPICS

No. 248

(2025 年 10 月 16 日)

景気ウォッチング（要旨）

日本 … 個人消費と輸出が弱めの動きとなるなか、設備投資が引き続き堅調に推移していることから、全体としてはごく緩やかな回復の動きが続いている。消費者物価(除く生鮮食品)は、前年比プラス幅が縮小している。この間、国内政治情勢のほか、徐々に顕在化している米国の通商政策の影響や中国経済の長期低迷など、先行き不透明感の強い状態が続いている。

米国 … 設備投資は堅調に推移し続けているものの、生産と個人消費が横這い圏内の動きとなっているほか、労働市場が悪化しつつあることから、全体としては減速の兆しがみられる。消費者物価は、緩やかに上昇している。

(参考) 日米の物価動向

〈日本〉 食料価格(除く生鮮食品)の上昇テンポが鈍化し、エネルギー価格が政府補助金の効果などにより前年比マイナスとなったことから、前年比プラス幅が縮小している。この間、飲食料品などの輸入物価は、契約通貨ベースでは前年比プラス幅が縮小しているものの、円安の進行に伴い円ベースでは前年比プラス幅が拡大している。

〈米国〉 サービス以外の価格が鎮静化しているなか、サービス価格が緩やかに上昇したことから、全体としても緩やかに上昇している。



京都フィナンシャルグループ

京都総研コンサルティング
